
赤いラブレター

夏目洋介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤いラブレター

【Nコード】

N8211C

【作者名】

夏目洋介

【あらすじ】

一人の女性の恋心を表現してみました。

(前書き)

怖がりな人はちょっと読まないほうがいいのかも・・・

ねえ、拓也。あなたは覚えているのかな？私とあなたが出会ったあの日を……

あなたはバスケット部としてコートの上で誰よりも輝いていたね。私が親友の小夜子と一緒に初めて体育館に行った時、あなたを初めて見た時、その時から私の恋は始まっていたんだよ？

あなたは気付いていたかな？私の恋心を……。拓也は鈍感だから気付いていなかったかな？？ふふっ。

ねえ、拓也。あなたは覚えているのかな？私たちが初めてデートしたあの日を……

あの日は私と小夜子と拓也と三人で遊園地に行ったね。お化け屋敷に行ったこと覚えているかな？恥ずかしくて忘れちゃった？ふふっ。そうだよね……。だって拓也ったらあまりに怖すぎて私の手と間違つて小夜子の手を握って走り出しちゃうんだもん。面白かった。

ねえ、拓也。あなたは覚えているのかな？私たちが初めてドライブに行ったあの日を……

免許取りたてのあなたに誘われて、私と小夜子と三人で海を見に行つたよね。あの時はびっくりしたよね。気付いたら拓也と小夜子が迷子になっちゃうんだもん。私あせつたんだよ。二人が波にさらわれたらってね（笑）ちょっとしたらふらつと二人が出てきて、私超安心したんだよ。

ねえ、拓也。あなたは覚えているのかな？バレンタインデーのあの

日を・・・

私初めてチヨコ作ったんだよ。愛する人のために心を込めて・・・。チヨコを渡した時のこと覚えているかな？拓也ったら恥ずかしがつて受け取れないって言ったりなんかしてさ。照れちゃってかわいいく。無理やり渡しちゃったけど、ちゃんと食べてくれたかな？恋人のチヨコだもん、食べてくれたよね？そういえば小夜子からもチヨコもらつてたよね？もしかして小夜子、拓也のこと好きなのかな？親友の彼氏を好きになっちゃったのかな？少し心配です。

ねえ、拓也。あなたは覚えているのかな？クリスマスのあの日を・・・

二人で過ごそうって決めてたのに・・・拓也バイトだからって会えなくなっちゃったんだよ。私悲しくて寂しくて・・・街を一人で歩いてたんだよ？そうしたら拓也見つけたよ。そしたら小夜子と二人で歩いていたね。小夜子・・・やっぱり拓也の事好きだったんだね。無理矢理拓也を連れ出してさ。拓也も優しいよね。小夜子、私の親友だから冷たく断ること出来なかつたんだね。いいよ。私も我慢する。拓也の優しさを見れただけでも私は満足なんだから。

でもまたこんな事があつたら私耐えられないかも・・・それほど私の心は強くないんだよ？いつも一緒にいられるようにしなきゃね・・・二人の愛は本物なんだから！！

朝子はそこで右手のペンを置き、背伸びをした。外はもう夜になっていた。切々と積もる雪を朝子は部屋の窓から見た。そこで、携帯が鳴った。

「あつ、朝子？私、小夜子だけど・・・拓也見てないかな？じつは数日前から家にも帰ってないみたいでさ・・・」

あせっているのが手に取るように分かる。朝子は一言知らないと言つて携帯を切つた。

「小夜子しつこいね。拓也は私と愛し合っているのにね。ねえ、拓也？」

振り返つたその先には、拓也の優しい笑顔があつたように見えた。それを確認して朝子は言つた。

「今、あなたにラブレター書いてるんだ。出来たら見せてあげるね。ふふっ」

それを聞いてさらに拓也は笑つた・・・ように朝子には見えた。そこには赤く彩られた、今まで拓也と呼ばれた一つの物体が存在しているだけだつたのだから・・・

「ずっと一緒だよ・・・」

朝子はそう言つて赤く染まつた右手を動かし始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8211c/>

赤いラブレター

2010年12月20日04時12分発行